特別活動

主体的・協働的に学級集団をよりよくしていく子どもの育成
～学級力向上プロジェクトの取組～

日置市立伊集院小学校　教諭　中屋　友厚

【推薦のポイント】

○　児童が主体的・協働的に学級づくりに関わり，自分たちの力でよりよい学級をつくっていこうとした軌跡と，その過程で効果的だった「学級力向上プロジェクト」の取組について検証しまとめられています。

○　グラフ等の客観的なデータを基に，学級の実態をいかに的確に把握するか，そして学級をどのように導いていけばよいかについて複数の教師が意見交換していく際に有効な手立てとして，大いに参考になる実践です。

目　　次

1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　学級力向上プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

3　学級力レーダーチャートを生かす実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

4　個票や学級力プロット図を生かす実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

5　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

○　参考・引用資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

＜実践研究の概要＞

本論文は，子どもたちが主体的・協働的に学級づくりに関わり，自分たちの力でよりよい学級をつくっていこうとした軌跡と，その過程で効果的だった「学級力向上プロジェクト」の取組について検証しまとめたものである。

１学期の学級経営を振り返り，子どもたちが主体的につながり合い，育ち合う関係性を築いていく力を育てていく必要性を強く感じた。そこで，２学期から学級力向上プロジェクトに取り組んだ。

学級力とは，子どもたちが学び合う仲間である学級をよりよくするために，常にチャレンジする目標をもち，安心し合える友達との豊かな対話を創造して，規律を守り自律的に協調的関係を築こうとする力である（『NEW 学級力向上プロジェクト』今宮信吾・田中博之編著・2021・金子書房）。学級力向上プロジェクトは次のように進める。まずは，学級力を子どもたちが評価し，可視化されたレーダーチャートで学級の強みと課題を共有した後，アイデアを出し合い，アクションプランを協議する。そして実行・実践し，その成果を確認・評価し，改善していく。

本稿では，９月初めに学級力アンケートを行い，２学期のアクションプランを決め，１２月に２回目の学級力アンケートを行い，自分たちの実践を振り返りながら，成長を確認したり今後の課題を共有したりするまでをまとめた。

学級力向上プロジェクトの取組の成果は次の点である。

○　学級集団に所属する子ども一人一人が，自分たちの学級をよりよくしていこうとする主体的で協同的な力を発揮することができた。

○　学級力がレーダーチャートで可視化されるため，学級のよさと課題が共有でき，学級をよりよくしていこうとする方向が定まり，取り組みやすくなった。

○　個票や学級力プロット図により，平均値に隠れた一人一人のよさや困り感が見えてきて，気がかりな子どもへの対応がしやすくなった。

今後も学級力向上プロジェクトのサイクルを回しながら，子どもたちが主体的・協働的によりよい学級を作っていけるように支えていきたい。学級力向上プロジェクトは学級経営の姿を見えるようにし，グラフをどのように分析すればよいか，そして学級をどのように導いていけばよいかについて複数の教師が意見交換していけるツールになる。学級力向上プロジェクトが，学校全体，さらに校種を越えて広がっていくことを期待したい。

１　はじめに

近年，子どもたちの人間関係力の低下が課題となっている。スマホやゲームの普及による引きこもりや群れで遊ぶ子どもが減ってきていること，ＩＣＴ機器導入により増えた一人学び，さらに拍車をかけているコロナ禍でのグループ活動の制限や黙食，静かな学びなど，子どもたちは今，自由に伸び伸びと活発に人と関わることが抑制された環境の中に置かれている。

筆者が担当する５年生の学級には，素直で明るい子どもがたくさんいる。１学期は大きなトラブルがなく無難に過ぎた。ある子どもが「このクラスでは喧嘩がなかった」と振り返っていた。しかし，担任としては充実感に欠けた思いが残った。それは，次のような実態があったからだ。

○　前学年からの気心の知れた友達とは楽しそうに過ごしているが，あまり親しくない友達とは積極的に関わろうとしない。グループが固定されていてなかなか新しく親しくなれる友達が少ない。授業中，自由に話し合う活動では，いつも同じ友達の所に集まっている。また，男子同士，女子同士でしか活動しようとしない。

○　４月に決めた学級目標「楽しくてたまらない学級」のためのアクションの一つとして「長縄 300 回」に取り組む子どもが半数ぐらいしかいない。また，雨の日の朝のボランティア活動に取り組む子どもも僅かで，誰かのために働こうとする意欲が低い。決められた仕事はきちんとできるが，そうでないものには進んで取り組もうとしない子どもが多い。

○　授業中の発表が少なく，しかも声が小さい。友達の発言への反応も少ない。失敗することを恐れ自己表現することに消極的であり，それを改善しようとする意欲が足りない。高学年の子どもにはありがちな傾向であるが，なかなか改善されないまま１学期が過ぎた。また，学力の課題を抱えた子どもが比較的多く，自分の学習状況を分析して改善していこうとする力を育成する取組を続けてきた。

○　教師が提案したレクリエーションやゲーム等へは積極的に取り組み楽しもうとするが，自分たちで何かをして楽しもうとする姿は少ない。

以上のような学級の実態に対して，担任としてこれらの課題を何度も指摘し，改善していこうと呼びかけてきた。その中で，子どもたちが主体的につながり合い，育ち合う関係性を築いていく力を育てていく必要性を強く感じた。そこで出会ったのが「学級力向上プロジェクト」であった。

２　学級力向上プロジェクト

関東学級力向上研究会世話人の田中博之（早稲田大学教職大学院教授）は，「学級力は，クラスに所属する子どもたちの関係性を高めるための新しい能力観であり，子どもたちが学級力アンケートの結果をレーダーチャートでわかりやすく表示して見ることにより，自分たちの学級を主体的・協働的によりよくしていこうとする意識と行動力を高める上で効果的なアクティブ・ラーニングとしての学級づくりのアイデアである」と述べている。以下に，田中らが提唱する学級力向上プロジェクトについて『NEW 学級力向上プロジェクト』（今宮信吾・田中博之編著・2021・金子書房）を引用しながら紹介したい。

(1)　学級力とは

学級力とは，子どもたちが学び合う仲間である学級をよりよくするために，常にチャレンジする目標をもち，安心し合える友だちとの豊かな対話を創造して，規律を守り自律的に協調的関係を築こうとする力である。学級力は，次の６領域からなる力の総称である。

ア　目標達成力・・・いつもクラスに達成したい目標があって，子どもたちが生き生きといろいろなことにチャレンジしているクラス。

イ　自律実践力・・・自分たちのことは自分たちで実行・実践していくことを大切にして，特に時間の管理や学級会での司会・進行，学習と休憩の間のけじめ，行事や学校ボランティア活動などを頑張るクラス。

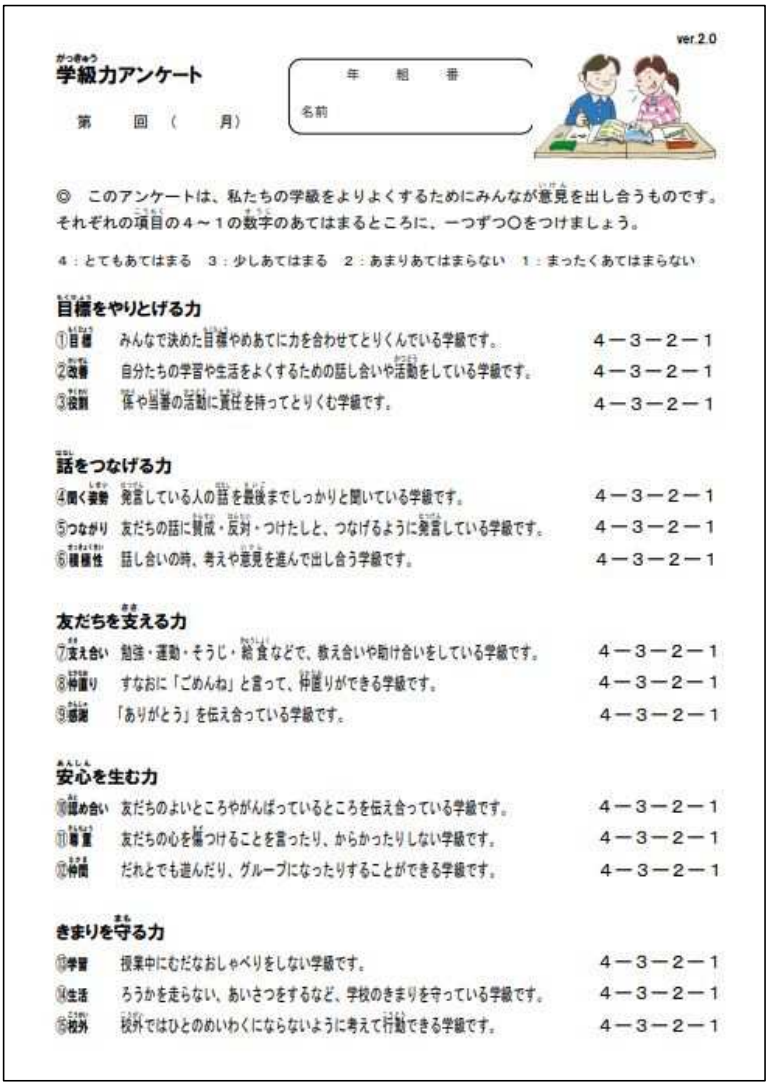
ウ　対話創造力・・・授業中に，友だちの意見につなげて発言したり，友だちの意見を尊重してよりよいアイデアや新しい考えを生み出したりして，コミュニケーションを豊かに展開できるクラス。

エ　協調維持力・・・友だち同士で何でも相談し合える仲のよさがあり勉強やスポーツでよく教え合い，けんかをしてもすぐに仲直りできるクラス。

オ　安心実現力・・・クラスが居心地のよい学習と生活の場となるように，一緒に仲よく学習や運動に取り組み，やさしく丁寧な言葉づかいができてだれもが平等に扱われるクラス。

カ　規律遵守力・・・多様な学習や生活のルールを守るだけでなく，それらを話し合いによって創り出していくことができる規範意識の高いクラス。

【学級力アンケート（高学年用）】



ver.2.0

学級力アンケート

第　回（　月）

年　組　番

名前

◎　このアンケートは、私たちの学級をよりよくするためにみんなが意見を出し合うものです。それぞれの項目の４～１の数字のあてはまるところに、一つずつ○をつけましょう。

４：とてもあてはまる　３：少しあてはまる　２：あまりあてはまらない　１：まったくあてはまらない

目標をやりとげる力

①目標	みんなで決めた目標やめあてに力を合わせてとりくんでいる学級です。	４－３－２－１
②改善	自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動をしている学級です。	４－３－２－１
③役割	係や当番の活動に責任を持ってとりくむ学級です。	４－３－２－１

話をつなげる力

④聞く姿勢	発言している人の話を最後までしっかりと聞いている学級です。	４－３－２－１
⑤つながり	友だちの話に賛成・反対・つけたしと、つなげるように発言している学級です。	４－３－２－１
⑥積極性	話し合いの時、考えや意見を進んで出し合う学級です。	４－３－２－１

友だちを支える力

⑦支え合い	勉強・運動・そうじ・給食などで、教え合いや助け合いをしている学級です。	４－３－２－１
⑧仲直り	すなおに「ごめんね」と言って、仲直りができる学級です。	４－３－２－１
⑨感謝	「ありがとう」を伝え合っている学級です。	４－３－２－１

安心を生む力

⑩認め合い	友だちのよいところやがんばっているところを伝え合っている学級です。	４－３－２－１
⑪尊重	友だちの心を傷つけることを言ったり、からかったりしない学級です。	４－３－２－１
⑫仲間	だれとでも遊んだり、グループになったりすることができる学級です。	４－３－２－１

きまりを守る力

⑬学習	授業中にむだなおしゃべりをしない学級です。	４－３－２－１
⑭生活	ろうかを走らない、あいさつをするなど、学校のきまりを守っている学級です。	４－３－２－１
⑮校外	校外ではひとのめいわくにならないように考えて行動できる学級です。	４－３－２－１

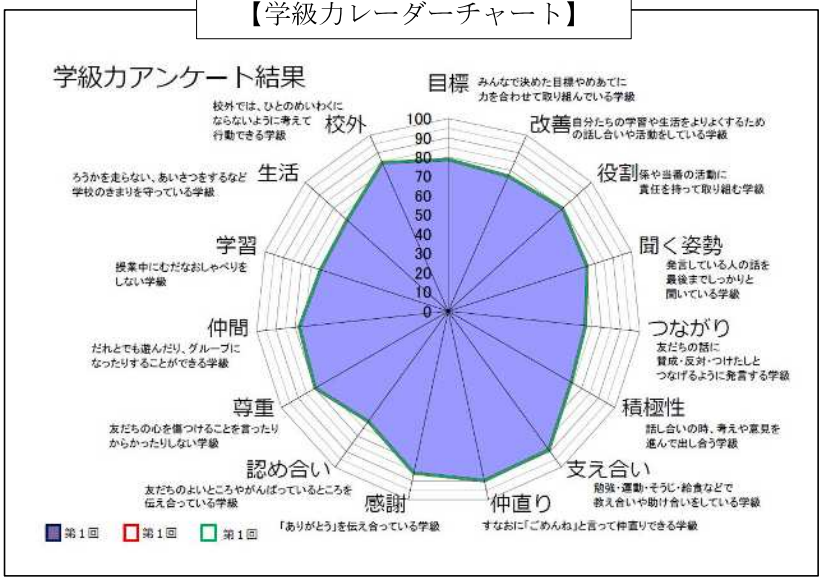
(2)　学級力アンケート

上記の６つの力から領域としてやや難しい「自律力」を外して，５領域で右上のようなアンケートを作成してある。アンケートの内容は，個人から見た学級集団の評価になっている。

(3)　学級力レーダーチャート

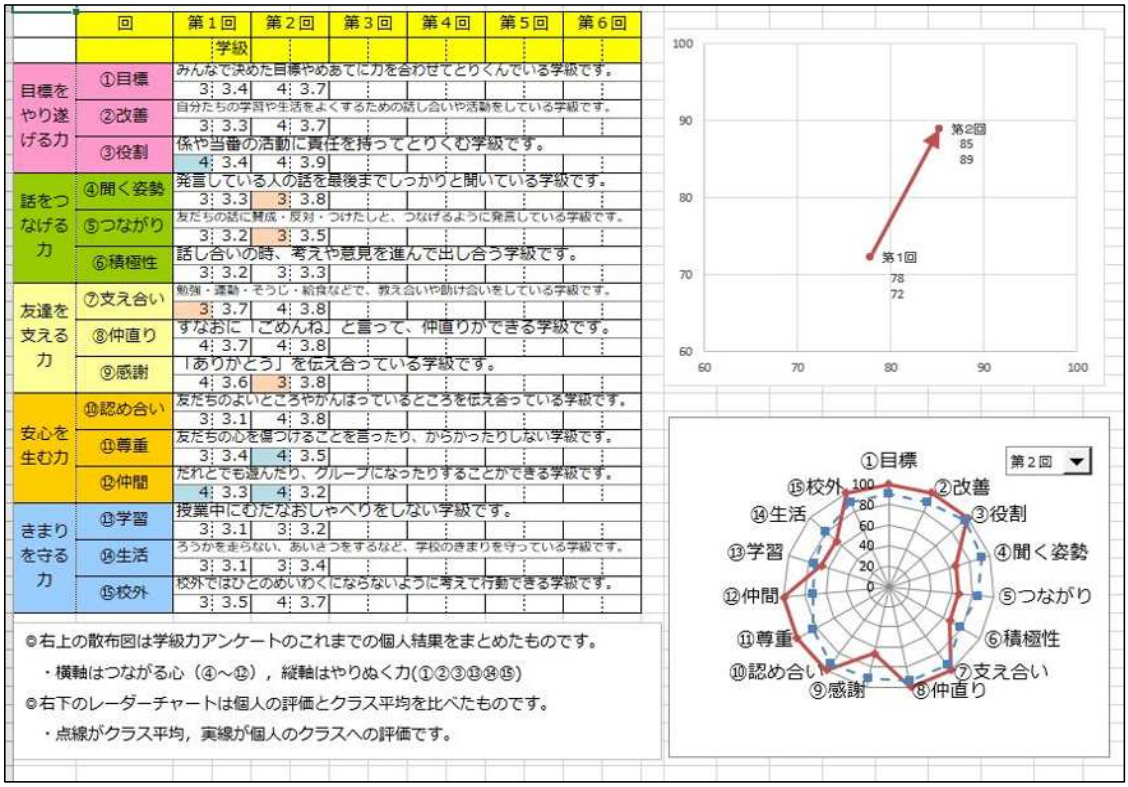
アンケート結果をレーダーチャートのグラフにすることで，学級の強みと課題が可視化され，子どもたちは，課題解決のアクションプランを考えたり，実践の振り返りをしたり，自分たちの成長を確認したりすることができる。

【学級力レーダーチャート】



(4)　個票

学級力レーダーチャートでは，学級集団の学級力が可視化できる。しかし，学級集団を構成するのは一人一人の子どもである。学級力向上プロジェクトでは，アンケート結果を入力すると次のような個票も出すことができる。一人一人が学級集団をどのように評価しているか，複数回の比較でどう成長したかなどを把握し，個別指導に役立てることができる。



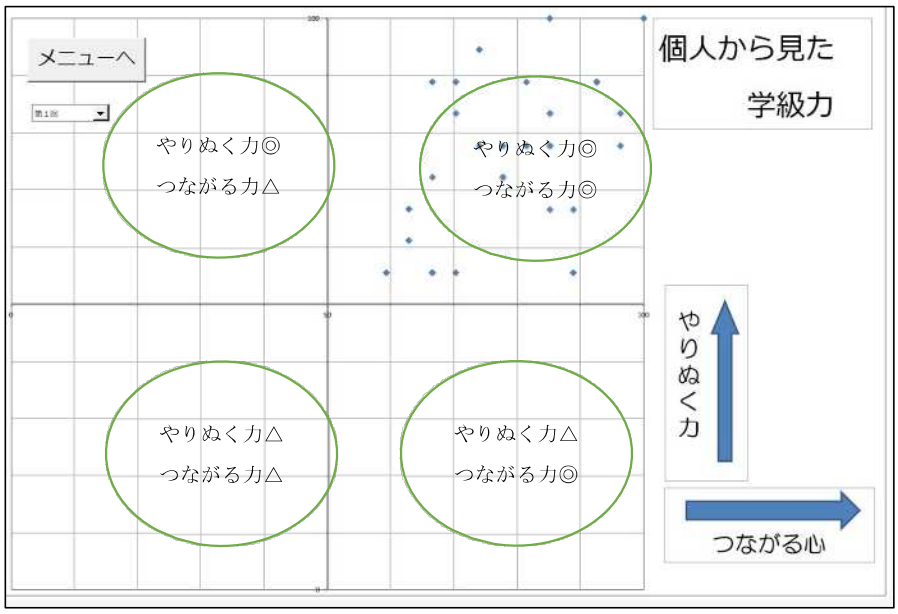
	回	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回
		学級					
目標をやり遂げる力	①目標	みんなで決めた目標やめあてに力を合わせてとりくんでいる学級です。					
		3 3.4	4 3.7				
	②改善	自分たちの学習や生活をよくするための話し合いや活動をしている学級です。					
		3 3.3	4 3.7				
	③役割	係や当番の活動に責任を持ってとりくむ学級です。					
		4 3.4	4 3.9				
話をつなげる力	④聞く姿勢	発言している人の話を最後までしっかりと聞いている学級です。					
		3 3.3	3 3.8				
	⑤つながり	友だちの話に賛成・反対・つけたしと、つなげるように発言している学級です。					
		3 3.2	3 3.5				
	⑥積極性	話し合いの時、考えや意見を進んで出し合う学級です。					
		3 3.2	3 3.3				
友達を支える力	⑦支え合い	勉強・運動・そうじ・給食などで、教え合いや助け合いをしている学級です。					
		3 3.7	4 3.8				
	⑧仲直り	すなおに「ごめんね」と言って、仲直りができる学級です。					
		4 3.7	4 3.8				
	⑨感謝	「ありがとう」を伝え合っている学級です。					
		4 3.6	3 3.8				
安心を生む力	⑩認め合い	友だちのよいところやがんばっているところを伝え合っている学級です。					
		3 3.1	4 3.8				
	⑪尊重	友だちの心を傷つけることを言ったり、からかったりしない学級です。					
		3 3.4	4 3.5				
	⑫仲間	だれとでも遊んだり、グループになったりすることができる学級です。					
		4 3.3	4 3.2				
きまりを守る力	⑬学習	授業中にむだなおしゃべりをしない学級です。					
		3 3.1	3 3.2				
	⑭生活	ろうかを走らない、あいさつをするなど、学校のきまりを守っている学級です。					
		3 3.1	3 3.4				
	⑮校外	校外ではひとのめいわくにならないように考えて行動できる学級です。					
		3 3.5	4 3.7				

◎右上の散布図は学級力アンケートのこれまでの個人結果をまとめたものです。
・横軸はつながる心（④～⑮），縦軸はやりぬく力(①②③⑬⑭⑮)
◎右下のレーダーチャートは個人の評価とクラス平均を比べたものです。
・点線がクラス平均，実線が個人のクラスへの評価です。

(5)　学級力プロット図

子どもたち一人一人をドットにして表したものである。学級力の目標達成力・規律力を「やりぬく力」として縦軸に，対話力・協調力・安心力を「つながる力」として横軸にして表すことで，一人一人のよさや課題が見えてくる。学級力レーダーチャートではプラスの評価が出ていても，個としては困り感を感じている子どももいるかもしれない。

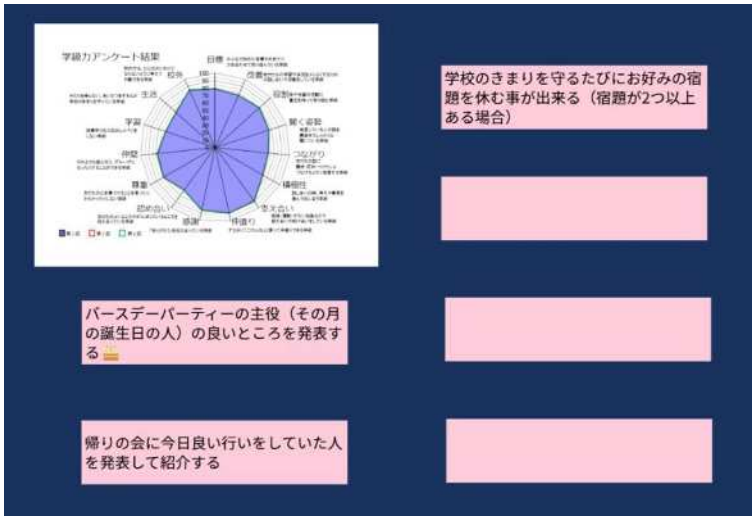
プロット図を併用することで，個と集団が響き合いながらともに成長する学級を生み出すことができるのではないかという仮説が立つ。



【学級力プロット図】

３　学級力レーダーチャートを生かす実践

【子どもに配布したロイロノートのカード】



(1)　第１回アンケート（９月）

第１回目の学級力アンケートは９月初めに行った。

アンケート結果を右のようなロイロノートのカードにして配布し，各自でアクションプランを考えさせた。その後，２学期に取り組むアクションプランを話し合わせた。

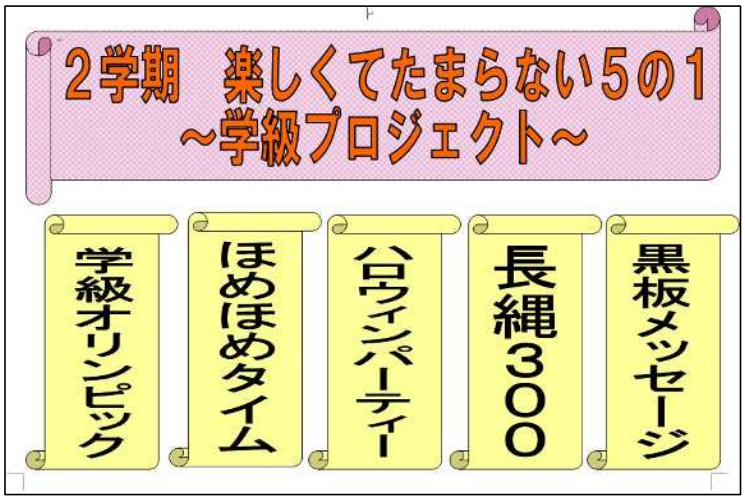
１学期の学級力を評価したレーダーチャートで確認できたことは，次の点である。

＜学級の強み＞

・　支え合い，仲直り，感謝，校外での行動

＜課題＞

・　認め合い，つながり，積極性，授業態度，生活の決まり



子どもたちの話合いの結果，右のアクションプランが決まった。特に，「ほめほめタイム」については多くの子どもが提案をしてくれた。また，クラスのみんなに向けてのメッセージをかく「黒板メッセージ」にも賛成が多かった。楽しい企画や行事を通して，友達のよさを認め合っていこうとする強い意図が感じられた。この他に，学級係が「すぐに反応あいうえお」「男女関係なくグループを作ろう」というポスター（右写真）を教室前方に掲示してくれた。

レーダーチャートによって，自分たちの学級のよさや課題が可視化されたため，子どもたちは具体的にどんな取組をしていけばよいかを考えやすくなった。

(2)　アクションプランの実践

取り組むことが明確になることで，今，自分たちはどこに向かい，どのような実践をしているかを自覚できるようになった。

「ほめほめタイム」は，帰りの会で友達のよさを褒め合うアクションである。褒められる人が偏らないように，日直を褒めるようにした。初めのうちは褒める人が決まっていたが，できるだけ多くの人が発言できるように呼びかけを行った。その結果，日直の子どものよさを積極的に見付けようとする姿が見られるようになった。「Ａさんは，掃除

を一生懸命しています。」「Ｂさんは，発表のときの声が大きいです。」「Ｃさんは，イラストを描くのが上手です。」「Ｄさんは，私がけがをしたときに保健室に連れて行ってくれました。」など，いろいろな角度から褒めてくれる子どもが増えてきた。日記に，「ほめられるのもうれしいけど，ほめるときもいい気持ちになる。」と書いていた子どももいた。学級力の認め合いを高めるアクションになってきた。

「黒板メッセージ」は，翌日登校したときみんながいい気持ちになるメッセージを書こうとする取組である。帰りの会が終わると，書きたい子どもが黒板の前に集まり，イラストや言葉をかいていく。「今日も頑張ろう。」「テスト，頑張ろうね。」「今週も楽しかったね。今週は明日まで。」など元気が出るようなメッセージが書かれた。一方で冗談が過ぎて不適切な内容が書かれることもあったが，その都度，黒板メッセージの目的を確認し合い，修正していった。

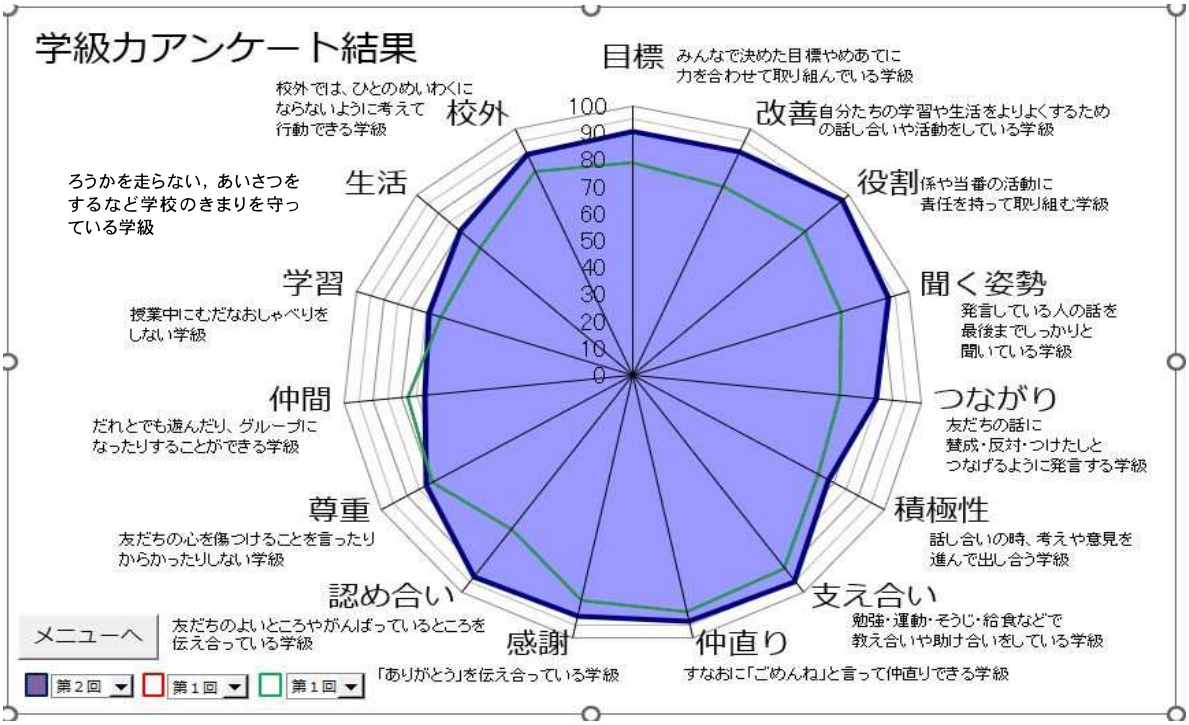
１学期参加が少なかった「長縄 300」には，体育係の呼びかけもあり参加者が増えてきた。１分間 100 回を達成した頃から練習の成果を実感でき，より意欲的になった。最高記録 298 回を打ち出すことができた。「長縄 300」の取組は，みんなで合わせることの難しさと，みんなで合わせることのすばらしさを感じることができる取組になった。

「ハロウィンパーティー」の話合いでは，希望者による仮装大会や「ハロウィンバスケット」「ハロウィン爆弾ゲーム」などが決まった。この話合いでは，目的と条件を確認しながら話合いが行われた点がよかった。最初は「何でもバスケット」をしようという意見が出されていたが，ハロウィンらしいゲームにしたいというアイデアが出され，みんなが賛成した。ハロウィン爆弾ゲームでは，本物のカボチャを持ってきてみんなで回し合った。この頃から目的や条件に合わせた話合いができるようになってきた。

「学級オリンピック」は，いろいろなゲームをグループ対抗で競い合うイベントである。「紙飛行機飛ばし」「くつ飛ばし」「おはじき競争」「イントロあてクイズ」などの個人種目と「あっち向いてホイ」「じゃんけんリレー」などの団体種目を設定した。しかし，新型コロナウイルスによる学級閉鎖があり３学期に延期になった。

(3)　第２回アンケート（１２月）

【学級力レーダーチャート（緑線が１回目，青線が２回目の結果）】



２学期終わりの１２月に第２回目のアンケートを実施した。学級力レーダーチャートには，第１回目のアンケート結果も表示されるため，変容を捉えやすくなっている。新型コロナウイルス感染拡大による学級閉鎖期間中にロイロノートでカードを配布し，２学期の学級力を分析して，提出してもらった。

【子どもの分析】

左のグラフは，学級プロジェクトの結果です。２学期初めが緑の線，２学期終わりが紫の線です。このグラフを見て，どんな感想をもちましたか。できるだけくわしくしく書いてください。提出箱に送信してください。

＜自分の感想＞
できていなかった「認め合い」ができるようになったから，「ほめほめタイム」が役に立ったのかなと思います。しかし，「仲間」が２学期初めより少し下がったから，「仲間」のポイントが増えるようにまた考えればいいと思います。でも，全体的に２学期初めよりポイントが高くなっています。だから，これから5 年１組は最高の5 年１組になると思います。

【提出箱に提出されたカード】

提出されたカードを見ると，多くの子どもが「認め合い」の伸びを実感できていた。自分たちが改善のためのアクションプランを決めて実践し，その効果を実感できていることが分かる。課題としては,「仲間」のグループ作りである。ポスターで呼びかけたものの改善できなかった。この課題も共通認識できていた。感心したことは，よかった点と課題の両方に着目する子どもたちが多かったことである。自分たちの取組の成果に満足できた結果であると思われる。以下に子どもたちの分析を紹介したい。（ロイロノートのカードは原文のまま）。

＜自分の感想＞　２学期初めと比べて
目標・・・長縄に参加する人が２学期初めは少なかったけど，最近は参加する人が増えてきたことなど，みんなで決めた目標に向かって取り組んできていると思う。
改善・・・道徳の時間，どういう考えや気持ちをもつとよいかが分かったとき，クラスのことを考えながら改善していることなどがよかったと思う。
役割・・・国語や算数の時間に先生が遅れたとき，係の人が問題を出すなど，自分の役割に責任をもって取り組んできたことがよかったと思う。
聞く姿勢・・・ノートにメモをしながらでも発表する人の方を見て聞くことができてきたと思う。
つながり・・・その人の意見と少し違ったり，付け足しなどがあったりするときは，積極的に言う人が増えてきたと思う。
積極性・・・話合いをするときは相手と意見が違っても，自分の意見をしっかり言うことができてきたと思う。
支え合い・・・勉強で分からないことがあったら教えてあげたり，給食台を運ぶのを手伝ってあげたり，相手が困っていたら助けてあげたりしようとする人が増えてきた。
仲直り・・・喧嘩をしても「ごめんね」とすぐに謝り，悪いところを認め合う人が増えてきた。
認め合い・・・２学期から「ほめほめタイム」を始めたことで友達のいいところが分かった。これからも続けたらいいと思う。
仲間・・・男女関係なくグループを作るときは，男女一緒にグループを作るという意識をもつことが大切だと思う。
生活・・・野外学習に行ってから挨拶をするように意識するようになってきたと思う。

＜自分の感想＞
全体的に良くなっているので，良いと思います。
「認め合い」が特に良くなっています。友達の良いところや頑張っているところを伝え合っているということは，とても良いことだと思います。
２学期の目標の「男女関係なく」という課題があまり克服できていないということから，１学期よりも「仲間」のところが上がっていないことが分かります。
最後に,「積極性」が１学期と比較すると上がっていますが，発表のとき手を挙げない人が多くいるので，そこは改善した方がいいと思います。

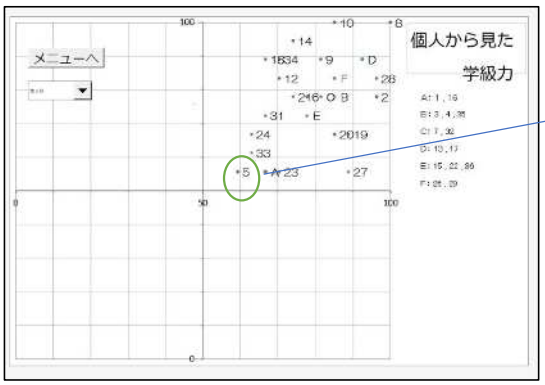
計画から改善まで効率よく進めるためのＰＤＣＡサイクルがあるが，学級力向上プロジェクトは，プランの前に現状分析・現状評価を共通理解することの重要性を示している。

第１回目のアンケートで学級の強みと課題を共有した後，一人一人のアイデアを出し合い，アクションプランを協議する（Plan）。そして実行・実践（Do）し，その成果を確認・評価（Check）し，改善（Action）していく。本実践では，２学期までの取組をまとめたものであるが，３学期にどのような取組をしていくかのサイクルを回すことで，よりよい学級づくりを進めていきたいと考えている。

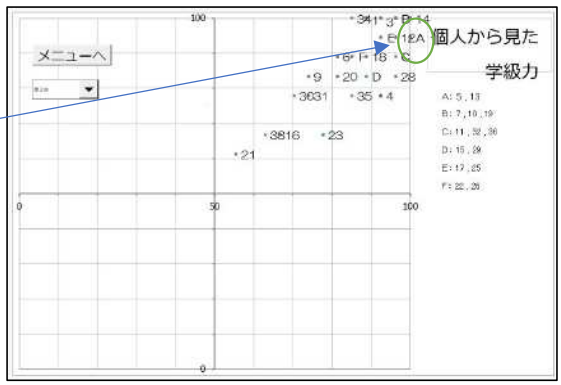
４　個票や学級力プロット図を生かす実践

学級力レーダーチャートは，個人から見た学級集団の評価を表したものであり，あくまでも平均値である。平均値に隠れた一人一人に目を向けると，それぞれの子どものもつよさや課題が見えてくる。学級力プロット図は，アンケート項目を二次元（やりぬく力とつながる力）に分け，一人一人をドットで表したものである。次は，１回目と２回目のプロット図の比較である。

【１回目の学級力プロット図】



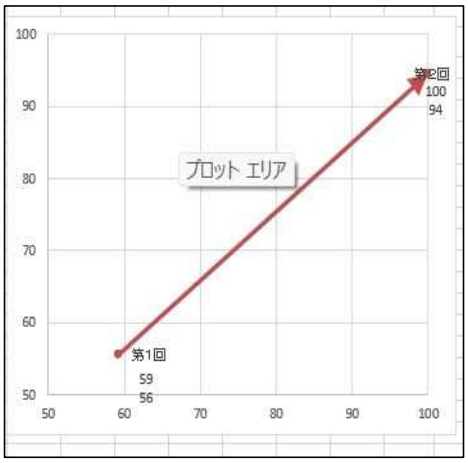
【２回目の学級力プロット図】

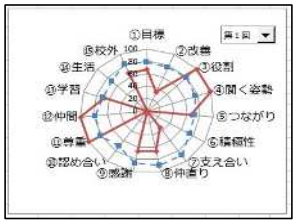


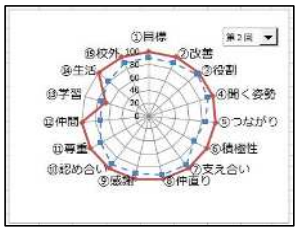
本学級の子どもたちは，１回目も２回目もどちらも右上の枠に入っており，全体的には「やりぬく力」と「つながる力」がとても高い学級集団であるといえる。２回目は，「つながる力（横軸）が高まっている。ここからは，個人に焦点を当てて，一人一人の成長を考察していきたい。

(1)　自己肯定感が低く，意欲が出ないＫさん

Ｋさんは，上の１回目のプロット図では５番の子どもである。友達思いの心優しい男児である。しかし，自分に自信がなく「どうせ自分はできない」とすぐに諦めてしまう子どもであった。学習意欲も低く，漢字テストに向けた漢字練習はほとんどしないことが多かった。１学期は「漢字練習をしないからできないんだよ。しっかり勉強しなさい。」といったマイナス面を強化するような指導をしてきた。しかし，Ｋさんには自信をつけさせることがもっとも重要な指導だと考え，保護者の協力をもらって少しの努力を大いにほめる「ほめほめ大作戦」に指導を転換した。その結果，２回目はＡの位置に変化した。





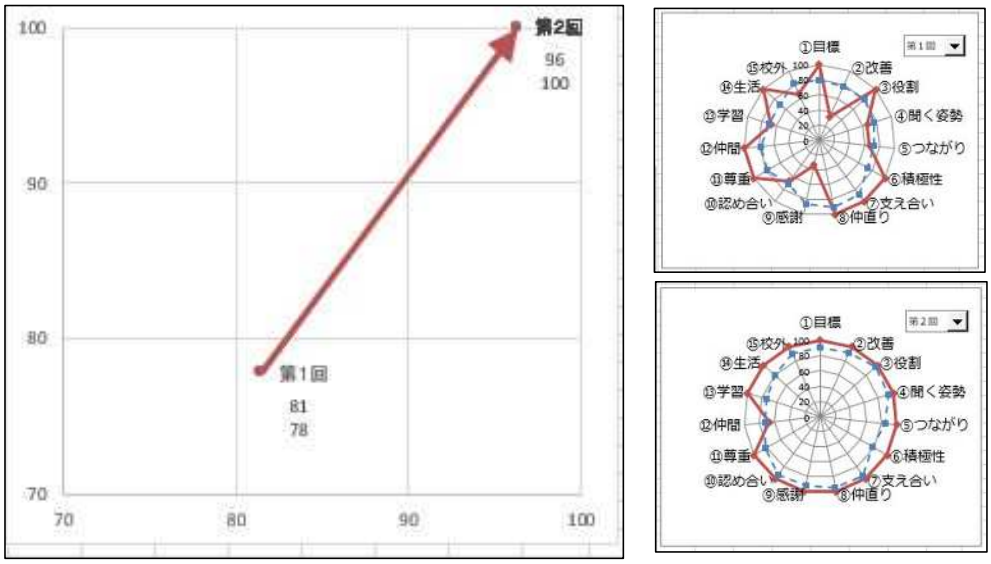


【Ｋさんの個票】

グラフはＫさんの個票である。

プロット図は，縦軸が「やりぬく力」，横軸が「つながる力」を表している。どちらともよい方向に伸びている。学級力レーダーチャートを見ても，１回目（上）よりも２回目（下）の方が高いポイントを示している。２学期は，Ｋさんが意欲的に変わってきているように感じる。これは学力にもよい影響を与えており，１学期と２学期を比べると，単元テストの平均では国語で約 10 点，算数で約 20 点高くなってきた。

(2)　明るく気配りができるＩさん

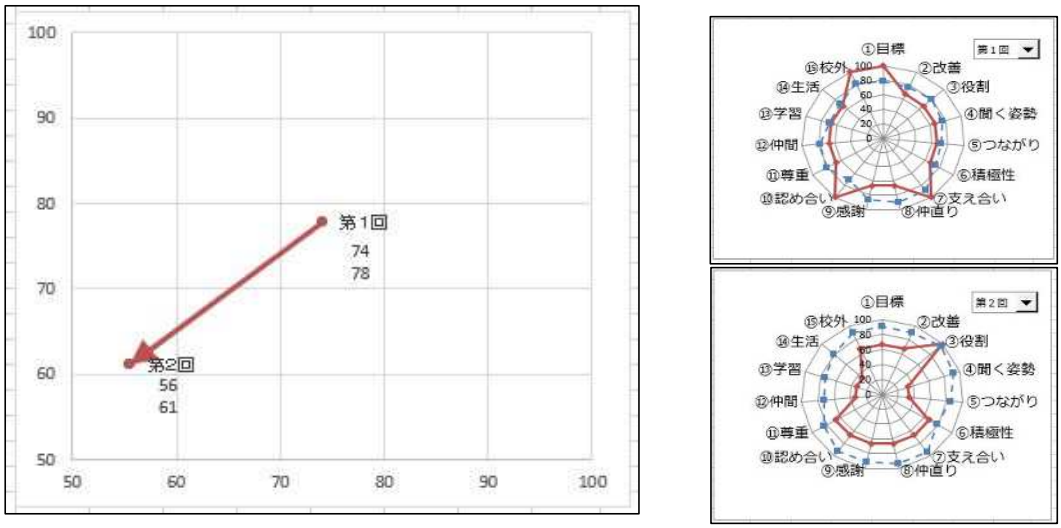


【Ｉさんの個票】

Ｉさんは，男女を問わず誰とでも気軽に話ができる女児である。Ｉさんは，普段から楽しい学級にしたいという強い思いをもっていた。しかし，１学期は学級の雰囲気を感じて，自分の意見をはっきり述べることをためらっていたようだった。自分の思いと学級の雰囲気がうまく合わずに苦しんだこともあったという。

２学期から取り組んだアクションプランを実践する中で，学級が向かう方向が揃い，自分の思いが実現できる機会が増えたことで，Ｉさんのレーダーチャートは拡大し，ドットもほぼ 100 に近づいた。学級力という共通指標があることが，個も集団も高めていけることを示している。

(3)　おとなしく自己表現が苦手なＮさん



【Ｎさんの個票】

Ｎさんは，普段からおとなしく自己表現が得意でない女児である。昼休みは一人でイラストを描いたり読書をしたりして過ごすことがある。仲のいい友達はいて，Ｎさんが一人でいるときは話しかけたり遊びに誘ったりしてくれている。「学校楽しぃーと」を見ると，友達や先生，学級集団に対して肯定的に捉えており，いじめも受けていない。「学校楽しぃーと」からは見えないＮさんの学級集団に対する困り感があるのかもしれない。Ｎさんが，２回目のアンケートで２の評価を付けている項目は，「聞く姿勢」「つながり（話合い)」「仲間（グループ作り)」「学習（おしゃべり等)」「生活（あいさつ，決まり)」である。どこかにＮさんなりの不満を抱えていることが考えられるので，今後の教育相談で話を聞いていく必要がある。

以上のように，個票やプロット図を見ていくと，集団の中に隠された子ども一人一人の成長や困り感が見えてくる。そこからどのような支援を行っていけばよいかという対応の仕方を考えることができる。学級力向上プロジェクトは，「このクラスをどう思うか」という個人から学級集団を評価したものであり，個人そのものは「学級楽しぃーと」で見ていくことによって複眼的な子ども理解ができるようになるのではないだろうか。

５　おわりに

１学期の学級経営を振り返り，２学期から学級力向上プロジェクトに取り組んできた。学級力向上プロジェクトの取組の成果として次の点が挙げられる。

○　学級集団に所属する子ども一人一人が，自分たちの学級をよりよくしていこうとする主体的で協働的な力を発揮することができた。自分たちで考えて決めたことを実践し，それを振り返って改善していこうとする姿が多く見られた。受け身で関係性の低い人間関係からは，このような姿は生まれてこないと思う。

○　学級力がレーダーチャートで可視化されるため，学級のよさと課題が共有でき，学級をよりよくしていこうとする方向が定まり取り組みやすくなった。学級力向上プロジェクトは，アンケート結果を入力するだけで，簡単にレーダーチャートやプロット図，個票等をつくれるようになっている。しかも無償でダウンロードできる。何度でも簡単に学級力向上プロジェクトに取り組むことができる。

○　個票や学級力プロット図により，平均値に隠れた一人一人のよさや困り感が見えてきて，気がかりな子どもへの対応がしやすくなった。必要に応じて「学校楽しぃーと」の活用もできる。子どもの困り感が解消されると学級力向上への関与が高まり相乗効果が期待できる。

今後も学級力向上プロジェクトのサイクルを回しながら，子どもたちが主体的・協働的によりよい学級をつくっていけるように支えていきたい。学校での全ての基盤は学級経営にあり，学級経営の重要性はこれまでも言われてきたことであるが，隣のクラスの学級経営は遠巻きにしか見ることができなかった。学級力向上プロジェクトはそれを見えるようにし，グラフをどのように見て分析すればよいか，そして学級をどのように導いていけばよいかについて複数の教師が意見交換していくツールになりえる。学級力向上プロジェクトが，学校全体，さらに校種を越えた，例えば小中一貫教育の柱となって広がっていくことを期待したい。

＜参考・引用資料＞
(1)　「文部科学省小学校学習指導要領」・文部科学省・H29.3 告示
(2)　『NEW 学級力向上プロジェクト』今宮信吾・田中博之編著・2021・金子書房